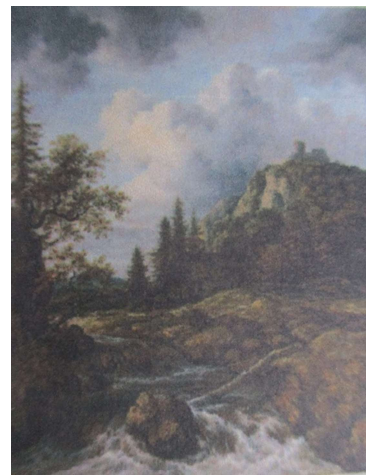
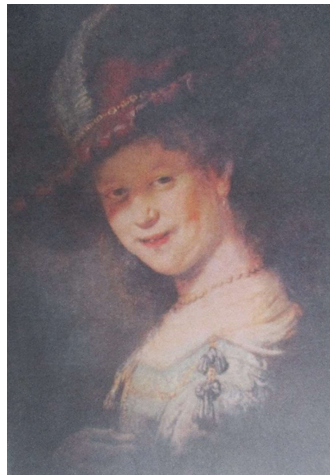
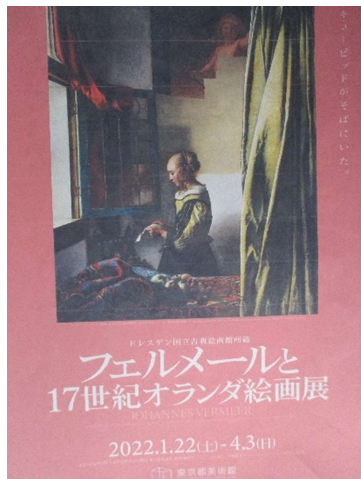


ドレスデン国立古典絵画館所蔵

フェルメールと17世紀オランダ絵画展

東京都美術館(上野公園) 2022.02.10 開幕日変更
北海道道立近代美術館 22.04.22~06.26 大阪市立美術館 22.07.16~09.25

ドイツ・ドレスデンのツヴィンガー宮殿の中にある「ドレスデン美術館」は、美術愛好家として知られる「アウグスト2世」が19~20世紀の絵画収集品、東洋磁気のコレクションにマイセン陶磁器を誕生させたことで名高い。



ヨハネス・フェルメール 《窓辺で手紙を読む女》油彩/キャンバス 1658年頃
前景にタペストリーで覆われたテーブルを配置し、窓から差し込む光の表現した絵画であるが、1979年のX線調査で壁面にキューピッドが描かれた画の中画が他人により塗り潰されていることが判明して、翌年から修復作業がされて、2021年に修復完了が発表され今回世界で初めて名作の姿を生で鑑賞できる。

レンブラント・ファン・レイ 《若きサスキアの肖像》1633年 中図
大きな帽子をかぶって、じっと見る者をうかがうような親密な視線を投げかけている作品は、顔の部分が明るい光に照らされているが、帽子のつばの影が上半分に落ちていて、身体は正面であるが顔は完全な横向きで、輪郭の線が暗い背景の中からはっきり浮んで見える強い効果をもっている。

ヤーコブ・ファン・ライスダール 《城山の前滝》1665~70年頃 右図
17世紀オランダ絵画の黄金期を彩る珠玉の名品「約70点」の展示である。